

Kフォーラム総会

平成31年度(令和元年度)

海友フォーラム 活動報告

令和2年7月

活動実績

- 平成31年 4月 38回例会実施
- 令和元年 8月 会長交代
- 令和元年10月 39回例会実施
- 令和 2年 1月 40回例会実施

- 令和 2年 3月 コロナ禍により41回例会延期通知

(注:令和2年4月 新コロナ禍緊急事態宣言発令)

会長交代 他

- 長きに渡って活躍頂いた城野 隆史氏に代わって 8月 新会長 濱田孝一 就任
- 新幹事 大柴 隆士に
- 旧幹部は顧問等アドバイザーに就任
- 運営方針
 - 1)従来 of 運営方針を基本的に継承し、テーマは、海事関係の技術論だけでなく、歴史文化にまで広範囲にとりあげる。
 - 2)好評を得ている、会員各位が興味を持った世界を自由に紹介できる場としても運用する。
 - 3)年3回開催から年4回を指向し発表機会を増やす。

懇談会の実施

- 予定計画に沿って3回実施
- 場所 何れも川重新海員会館に協力頂いた
- 日程
 - 38回 平成31年 4月15日 19名出席
 - 39回 令和 1年10月 2日 20名出席
 - 40回 令和 2年 1月30日 19名出席
- 特記：3月12日に、コロナ禍3密回避を考慮し、既に案内を出していた41回懇談会(4月24日予定)を延期する旨通知し、会員の理解を求めた。

38回懇談会

演題 「九州王朝と女王卑弥呼」

邪馬台国の位置はいまだ謎であるが、魏志倭人伝を紐とき、九州博多湾に存在したとする説の紹介を通じて、縄文弥生を過ぎた日本に大陸と交流が生じて、それらの外圧のもと、律令国家を確立する経過までを、27頁の分厚い資料にまとめて、論じて頂いた。時代変遷の中で、国力をどう整え対抗していったか、国防論を考えさせられた発表でもあった。

井沢雄幸さん



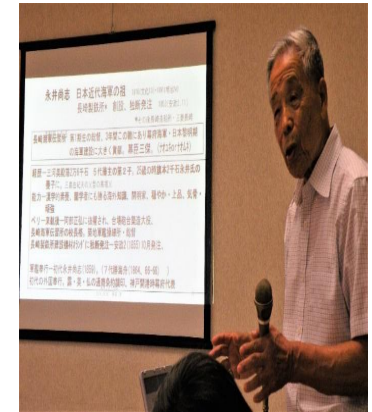
39回懇談会

演題:「群像 長崎海軍伝習所—近代海軍と造船の発祥にむけて—

--永井尚志、勝海舟他幕臣から戸田・船大工まで-- 」

ペリー来航以降、維新から昭和初期に至る、海事人物列伝である。外航船の建造と操船能力を自国で保有することが肝要であることを思い知らされ、幕府・新政府はそれに努める。その過程の各分野に貢献した人物像が、当時の社会背景と共に紹介され、新たな時代を迎えている現代にも示唆多い公演であった。

岡本 洋さん



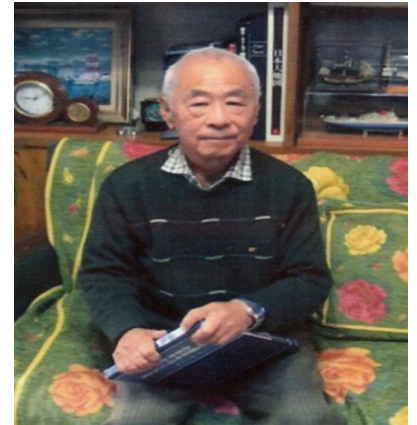
40回懇談会

演題1「改E型戦時油槽船の大量建造に就いて」

演題2「相生『吉田博展』その後

—播磨における吉田博の足跡— 石津 康二さん

造船所に残っていた、1枚の動員勤労学徒の絵が発端であった。結局未公開の造船所内風景も次々発掘し、明治の巨匠の空白の5年間を埋める美術史上の快挙となるだけでなく、戦事下で写真記録皆無の「大量建造」について、巨匠の精緻な画風が、造船史的にも1級の画像記録にもなった。改めて公演者の審美眼と、技術屋らしい探究心に敬意を表するものとなった。



ご静聴ありがとうございました

報告 終わり